

研究報告の報告状況

資料No. 2 - 6

(期間:平成16年8月1日～平成16年11月30日)

	一般的名称	報告の概要
1	ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	高カリウム血症の治療に対し、経口または注腸投与される、陽イオン交換樹脂であるポリスチレンスルホン酸ナトリウムとソルビトールとの併用により、25症例以上の腸管虚血の報告がある。また117例のポリスチレンスルホン酸ナトリウムを投与した術後患者のうち2例で腸管壊死を発現し、壊死を起こした部位付近にポリスチレンスルホン酸ナトリウムの結晶が観察された。
2	ラクツロース	急性肝性脳症に対するラクツロース、ネオマイシン併用群とプラセボ群との比較試験の結果、ラクツロース、ネオマイシン併用群で症状の変化のない症例もあり、併用療法の根拠がないことが示唆された。
3	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	HCV肝硬変合併患者に対する腎移植後、劇症肝炎に対してインターフェロン療法が奏功した1例
4	ワルファリンカリウム	Ginseng(アメリカ人参)はwarfarinの効果を減弱させる。
5	トポテシン	白人の癌患者において、UGT1A1*28遺伝子多型は、SN-38のAUC、SN-38グルクロン酸抱合体(SN-38G)とSN-38のAUC比ならびに塩酸イリノテカン(CPT-11)による好中球減少の程度との間に有意な相関性を示した。
6	塩酸ロメフロキサシン	XPAマウスでは野生株マウスと比較し、LFLXによる光発癌が誘発されやすく、energy transferの系を介して生成されたピリミジンダイマーを除去修復できないことがこれに関与していることが示唆された。
7	アスピリン	アスピリンは他のNSAIDsや利尿剤と比べ副作用によって入院することが多かった。
8	アスピリン	クロピドグレル単独投与よりアスピリンとの併用投与の方が生命を脅かす出血または大出血のリスクが高かった。
9	テガフル・ギメラシル・オテラシル	テガフル・ギメラシル・オテラシル内服症例51例、及びテガフル・ギメラシル・オテラシル+塩酸イリノテカン併用症例24例を評価したところ、グレード5の好中球減少を1例に認めた。
10	クエン酸シルデナフィル	塩酸バルデナフィルで認められる心臓再分極に対する作用は、クエン酸シルデナフィルで認められる作用と類似する可能性がある。
11	ナルエチステロン・エチニルエストラジオール	若年及び初産前から経口避妊薬の使用を開始した女性では、乳癌のリスクが増加する可能性がある。
12	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	新鮮Bell麻痺に対する大量ステロイド点滴静注療法(SD)と星状神経節ブロック(SGB)併用療法を行い、急死例を経験した。
13	フマル酸テノホビルジソプロキシル	テノホビルとジダノシンを併用した時、ジダノシンの血中濃度が上昇し、ジダノシン関連の副作用を発現する可能性が示唆された。
14	塩酸リトドリン	塩酸リトドリンの投与群において94.7%の発現率で動悸が認められた。
15	ケトプロフェン	局所用ケトプロフェンの使用がきわめて一般的になったため、皮膚科専門医が主に光接触皮膚炎をきたした患者の増大に直面することとなった。皮膚症状は重度かつ長期にわたるものが多く一部の患者には遷延性の光線過敏症がみられた報告がなされた。
16	塩酸パロキセチン水和物	アミトリプチリン、フルオキセチン、パロキセチンのうち1剤のみによる治療を開始した患者における死に至らない自殺行為の相対危険率をドチエピン(国内未承認)による治療を開始した患者と比較したが、本質的な違いは認められなかった。
17	ヘパリンナトリウム	網膜多発血栓を合併し、ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)が強く疑われた1例
18	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	急速に多彩な病態を呈した肺アスペルギルス症の1例

	一般的名称	報告の概要
19	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザ予防接種後に発症した複合性局所疼痛症候群タイプ1 (CRPSタイプ1)の1例
20	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に、強い局所反応とネフローゼ症候群の再発をきたした1例
21	硫酸バリウム	注腸検査で使用した硫酸バリウム製剤が虫垂炎穿孔を契機とした腹部放線菌症(慢性的な炎症反応)を助長した可能性がある。
22	レノグラスチム(遺伝子組換え)	LLC細胞を植えたマウス担癌モデルにG-とM-CSFを投与すると腫瘍内血管密度及び腫瘍の増大が見られた。
23	麦門冬湯	患者が麦門冬湯を服用後、肝機能障害を起こし入院した1例
24	塩酸リトドリン	緑茶には - アドレナリン受容体刺激薬の代謝に関与するSulfotransferase (SULT) に対する強い阻害効果があり、リトドリンと同時摂取するとリトドリンのバイオアベラビリティが上昇し、重篤な副作用が発現する可能性が示唆された。
25	アモキシシリン	本剤投与によりアレルギーによって誘発された急性冠動脈症候群の1例
26	シンバスタチン	妊娠3ヶ月間におけるスタチン製剤暴露の症例報告(新生児)において中枢神経系と肢の異常が見られた。
27	デキサメタゾン	デキサメタゾンを併用した乳児が体外膜酸素装置(ECMO)において、以前より短期間で治療できるという仮説を検証した結果、ECMOの最初の3日間に投与されるデキサメタゾンによって、ECMOの3日目までに肺損傷スコアは有意に改善するが、ECMO持続期間は顕著に短くならず、または生存率は増加しなかった。
28	アテノロール	アテノロール投与による重大な洞徐脈の1例
29	シンバスタチン	標準的な濃度のグレープフルーツジュースを、1日1回200mL程度づつ摂取しても、シンバスタチンや活性代謝物であるシンバスタチン酸の血中濃度は有意に上昇することが示唆された。
30	ワルファリンカリウム	ワルファリンとクランベリージュースとの間に相互作用がある。ワルファリンは主にCYP2C9で代謝されるものであり、クランベリージュースはCYP酵素を抑制する働きを持つフラボノイドを含有している。
31	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウムとTrikatu(アーユルベータ処方でPiper nigrum, Piper longumの実及びZingiber officinaleの根を乾燥させたものを1:1:1の割合で含む)の併用により、ジクロフェナクのバイオアベラビリティが低下する。
32	デキサメタゾン	デキサメタゾン単独あるいはデキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、脳血管発作、静脈洞血栓症、深部静脈血栓症、grade4の高血糖及び低ナトリウム血症、肺塞栓症が認められた。
33	塩酸プロカルバジン	退形成性乏突起膠腫と退形成性乏突起星細胞腫の併用治療法: 第II相試験に関する10年間の追跡最新データにおいて本剤によると考えられる脳症1例が報告された。
34	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な上行弓部大動脈瘤が発生した例
35	リン酸デキサメタゾンナトリウム	早産児の慢性肺疾患を予防するために、スタンダード42日間治療、個別治療という2つのデキサメタゾン療法の有用性を検討した結果、神経の正常発達が半数以下であり、くも膜下腔の拡大を認めた。
36	トラネキサム酸	トラネキサム酸が中枢神経系のGABA-A受容体に抑制的に働き、痙攣などの興奮性亢進作用を有する可能性がある。
37	ウロキナーゼ	重症急性肺塞栓症治療の救命治療体系の検討を行ったところ、外科的塞栓摘除術を行う前にウロキナーゼを投与した症例が6例あり、大量出血のため新鮮凍結血漿等の投与を要したとあり、使用上の注意から予測できない発現率の重篤な出血が起こった可能性がある。

	一般的名称	報告の概要
38	BCG膀胱内用	BCG膀胱内注入療法後に生じたライター症候群の例
39	イホスファミド	イホスファミド化学療法を受ける癌患者において、脳症の発生率が高かった。
40	硫酸モルヒネ	長期的なモルヒネへの暴露は、リポ多糖類誘因性の炎症を増強させ、敗血症ショックの進行を促進させる恐れがある。
41	シクロホスファミド	B型肝炎保菌者及びB型肝炎感染から回復したことのある患者は、リツキシマブとCHOP(シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ビンクリスチン、プレドニゾン)療法の併用によりB型肝炎ウイルスが再燃する恐れがある。
42	アンピロキシカム	フロセミドとピロキシカムの相互作用によりフロセミドの効果が減弱し、うっ血性心不全の悪化を認めた。
43	アンピロキシカム	非ステロイド性抗炎症薬はフロセミドの作用を有意に阻害しそれらの作用強度は同等であった。
44	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	新鮮Bell麻痺に対する大量ステロイド点滴静注療法における急死例
45	メトクロプラミド	疫学調査の結果、本剤により肝障害発症のリスクがあることが報告された。
46	メトクロプラミド	疫学調査の結果、本剤により肝障害発症のリスクがあることが報告された。
47	塩酸ロメフロキサシン	XPAマウスでは野生株マウスと比較し、LFLXによる光発癌が誘発されやすく、energy transferの系を介して生成されたピリミジンダイマーを除去修復できないことがこれに関与していることが示唆された。
48	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な破裂性腹部大動脈瘤を発症した1例
49	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な上行大動脈瘤を発症した1例
50	マレイン酸チモロール	マレイン酸チモロールの点眼治療を行った結果、うっ血性心不全、心動脈塞栓が認められた例
51	ブデソニド	ブデソニド吸入用懸濁液投与前後(観察期、12週)での血漿コルチゾール値を比較した結果、血漿コルチゾール値の低下がみられた。
52	ピロキシカム	非ステロイド性抗炎症薬はフロセミドの作用を有意に阻害しそれらの作用強度は同等であった。
53	カルボプラチン	Performance Status 不良の未治療小細胞肺癌に対しパラプラチン、ペプシド併用化学療法を行い、治療関連死を3例(敗血症2例、放射線肺臓炎1例)認めた。
54	プレドニゾン	術前プレドニゾン投与量により、潰瘍性大腸炎に対する待機的腹腔鏡手術の合併症発症頻度の上昇が認められた。
55	スピロラクトン	RALES(無作為割付アルダクトン評価試験)の発表後、スピロラクトンの処方率や、高カリウム血症に関連する罹患率・死亡率が急増した。
56	シクロホスファミド	進行性リンパ性悪性疾患を呈する患者で、2-クロロ-2'-デオキシアデノシンとシクロホスファミドの併用療法を行うと、二次性癌(骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病、肺癌)が発生する恐れがある。
57	メトクロプラミド	疫学調査の結果、本剤により肝障害発症のリスクがあることが報告された。
58	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム投与によりヘルペス脳炎を発症した1例
59	メトクロプラミド	疫学調査の結果、本剤により肝障害発症のリスクがあることが報告された。

	一般的名称	報告の概要
60	塩酸イリノテカン	高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対して実施した、CDDP + CPT - 11併用術前化学療法 + 外科切除の第2相試験にて、3例の治療関連死が認められた。
61	塩酸イリノテカン	高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対して実施した、CDDP+塩酸イリノテカン1併用術前化学療法 + 外科切除の第2相試験にて、3例の治療関連死が認められた。
62	アロプリノール	CMV腸炎を発症し、Drug-induced hypersensitivity syndrome と考えられた1例
63	ジアゼパム	ジアゼパムを内服していて、両下腿に、掻痒を伴う円形の淡褐色斑が出現した。辺縁が軽度に隆起する淡褐色の不整形の環状斑であり、病理組織学的に苔癬型反応を認めたことより環状扁平苔癬と診断した。
64	アスピリン	最近発症した虚血性脳血管障害又は一過性脳虚血発作患者を対象とした大規模試験 (MATCH) では、アスピリンとクロビドグレルの併用投与は、クロビドグレル単独投与と比べ、胃腸出血や頭蓋内出血等の出血リスクを上昇させる可能性がある。
65	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	細菌性敗血症の治療に従来の治療に加えて、ポリクローナル免疫グロブリンで治療した患者群と、ブラシーボまたは無治療の患者群と死亡率で比較した無作為化試験についてシステマティックレビューとメタ分析を行った。その結果、分析対象とした21の臨床試験全てのメタ分析では、免疫グロブリン治療での相対的死亡危険率は0.77 (95%CI, 0.68-0.88)であったが、質の高い臨床試験のみのメタ分析では相対的死亡危険率は1.02(95%CI, 0.84-1.24)であった。
66	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムの内服により紅斑が増悪し、菌状息肉症様の薬疹が発現した1例
67	アミノ安息香酸エチル	内視鏡検査、挿管及び気管支検査等の目的で使用したベンゾカイン製剤により、メトヘモグロビン血症が発症したという報告がFDAに対し5年間に132件あった。
68	キヌプリスチン・ダルホプリスチン	バンコマイシン耐性Enterococcus (VRE) 感染の癌患者におけるキヌプリスチン・ダルホプリスチンとミノサイクリン併用非盲検試験において、筋痛/関節痛の副作用が36%の頻度で発現した。
69	マレイン酸チモロール	マレイン酸チモロールの投与が行われた166症例の内、薬剤に関連する重篤な副作用として心動脈閉塞およびうっ血性心不全がそれぞれ1例に認められた。
70	ボルフィマーナトリウム	胸膜まで拡張した非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象に、光線を利用した治療法である術中光線力学療法 (PDT) と外科手術とを併用した第2相試験において、外科手術とPDTによる死亡が22例中2例に認められた。1例は肺切除とPDT実施直後に発現した成人呼吸促進症候群 (ARDS) で死亡し、他の1例は肺切除とPDT実施2ヶ月後に発現した肺炎により死亡した。
71	メシル酸プロモクリプチン	プロモクリプチン療法中に可逆性の重度拡張型心筋症が発現したという報告は本症例が初めての報告である。投与中止によって回復した。
72	濃グリセリン・果糖	エダラボンで見られる腎機能障害にセフェム系抗生物質とグリセロール製剤の併用が関与することが示唆された。
73	濃グリセリン・果糖	ラットにおいてフロセミドによる腎障害がセファロチンとグリセロール製剤の併用により増強された。
74	塩酸クロルプロマジン	精神科疾患にて向精神薬投与中の3症例で、合併した消化器疾患の加療を契機に悪性症候群を発症した。
75	ウロキナーゼ	血栓病患者に対してRheolyticな血栓摘出法であるAngioJet装置を用いて治療した場合と、ウロキナーゼ投与を用いた治療を行った場合とで無作為試験を行ったところ、溶血がそれぞれ、73%と38%起こった。
76	アスピリン・アスコルピン酸腸溶錠	血友病患者に発症したアスピリン製剤の関与が否定できない咽後間隙血腫の1例

	一般的名称	報告の概要
77	ピコスルファートナトリウム	高齢者を対象とした調査により、緩下剤の投与によって血漿ホモシステイン値が上昇することが認められた。
78	エトポシド	エトポシドを含む大量化学療法により汎血球減少が発現した1例
79	ヘパリンナトリウム	高齢者脳動脈瘤に対する血管内手術治療は70～79歳の破裂、未破裂動脈瘤、80歳以上の破裂動脈瘤に対して有効であった。
80	ヘパリンナトリウム	慢性腎不全による血液透析導入後にヘパリンと低分子ヘパリンに対しヘパリン起因性血小板減少症(HIT)を発症した1例
81	メフェナム酸	熱発および咽頭痛に対しセフジニル、メフェナム酸を投与。翌日より紅斑、一部水疱、びらんが出現し、中毒性表皮壊死症(TEN)型薬疹の疑いにて入院。ステロイドを投与したが、全身状態の改善はみられず、血漿交換療法を開始したところ、びらん部の乾燥化、全身状態の改善がみられた。
82	アスピリン	発熱、咽頭痛、右頸部腫脹が出現したためアスピリンを内服。2日後、右扁桃周囲膿瘍と診断され抗生剤を処方された。翌日より上気道炎に続いて右頸部腫脹と呼吸困難が出現。凝固因子製剤の投与にて血腫は自然に消失した。
83	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、grade3-4の深部静脈血栓症、下痢、低ナトリウム血症が認められている。
84	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク単独投与またはプレドニゾン等との併用投与の結果、胃腸出血、穿孔性十二指腸潰瘍、頭蓋内出血による死亡が認められている。
85	プレドニゾン	寛解導入療法中に合併した肺膿瘍に肺葉切除術を施行した急性リンパ性白血病の1例
86	塩酸ミキサントロン	ミキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
87	塩酸パロキセチン水和物	パロキセチンを含む抗うつ薬主要4種(SSRI、三環系、モノアミンキナーゼ阻害薬、非定型AD)の使用と乳がん発症リスク上昇については使用期間との関連性は認められなかった。
88	プレドニゾン	自己免疫疾患の患者においてプレドニゾン長期投与中に大血管病変を発症し大動脈瘤を発症した例
89	ハロペリドール	著明な上部消化管出血を呈した悪性症候群による急性腎不全の例
90	ゼラチン	肝動脈塞栓療法とスマンクス肝動注療法の併用において肝動脈塞栓療法を用いないスマンクス肝動注療法に比べ、AST、ALT等の上昇を高率に認めた。
91	アルファカルシドール	アルファカルシドール服用中に高カルシウム血症と腎不全を発症した1例
92	ジクロフェナクナトリウム	ミゾリピン使用中の関節リウマチ患者にジクロフェナクナトリウム坐剤を使用したところ、嘔気・嘔吐、高尿酸血症、急性腎不全、血小板減少が発現した1例
93	インドメタシン	超低出生体重児におけるIVH予防のための低用量インドメタシン静注の有効性及びそれに伴う合併症についての研究報告
94	塩酸ドスレピン	抗うつ剤投与開始後の自殺行動のリスクは、dothiepin使用患者と amitriptyline、fluoxetine、およびparoxetine使用患者との間で類似が見られる。抗うつ剤投与開始の最初の月、特に最初の1日から9日の期間に自殺行動のリスク上昇が認められる。

	一般的名称	報告の概要
95	ワルファリンカリウム	ワルファリンとクランベリージュースとの間に相互作用がある。ワルファリンは主にCYP2C9で代謝されるものであり、クランベリージュースはCYP酵素を抑制する働きを持つフラボノイドを含有している。
96	ハロペリドール	定型抗精神病薬の2年間治療患者ではHR 2.0(CI:1.2-3.3)、4年間治療患者ではHR 0.9(CI:0.6-1.4)であり、定型抗精神病薬の2年間治療患者において定型抗精神病薬非治療患者よりインスリン治療移行率が高かった。
97	塩酸デクスメトミジン	塩酸デクスメトミジン投与による有害事象(低血圧、嘔吐)の発生率は日本人より欧米人のほうが高かった。
98	セボフルラン	セボフルレン通過時、二酸化炭素吸収剤において経時的な温度変化が認められた。なお、セボフルレン濃度の影響はなかった。
99	スピロラクトン	無作為スピロラクトン評価試験発表は、高齢患者におけるスピロラクトンの処方率及び高カリウム血症に関連する罹患率、死亡率の急激な増加に関連していた。
100	塩酸モルヒネ	塩酸ロピバカインと塩酸モルヒネの術後硬膜外持続投与により、収縮期圧が80mmHg以下に低下した症例が21例報告された。
101	プレドニゾン	自己免疫疾患の患者においてプレドニゾン長期投与中にノカルジア脳腫瘍を発症し外科治療を施行した。
102	シベレスタットナトリウム水和物	急性肺障害患者を対象に実施した第II相臨床試験において本剤の有効性が認められなかった。
103	インターフェロン アルファ(BALL-1)	1歳未満の乳児の痙攣性両麻痺および運動性発育障害の発現には、インターフェロン投与の関連性が疑われる。
104	ケノデオキシコール酸	マウス及びラットの結腸において非遺伝子毒性の発癌物質及びプロモーターの投与によるDNAの低メチル化が生じた。
105	乾燥弱毒生麻しんワクチン	麻疹の予防接種により再発したと考えられた特発性肺ヘモジデロシスの1例
106	インドシアニングリーン	網膜表面の視認性が良好な場合はICG染色はしないほうが良い。しかしながら網膜表面のはっきりした像が得られない場合は低用量のICG使用は受け入れられる。ERTやOCTおよび蛍光血管造影の結果から視力の差は色素上皮細胞や網膜の障害だけでなく神経節や軸索への障害が考えられた。
107	イコサペント酸エチル	ワルファリン投与患者がイコサペント酸エチルを併用するとワルファリンの効果が減弱する。
108	ハロペリドール	抗精神病薬治療を受ける高齢の患者において、糖尿病のリスクが上昇する恐れがある。
109	スピロラクトン	疫学調査の結果、本剤とACE阻害薬の併用により、高カリウム血症による入院とそれに伴う院内死亡率が増加することが報告された。
110	麦門冬湯	著しい低カリウム血症と代謝性アルカローシスを伴った偽性アルドステロンの1例
111	アモキシシリン	閉塞性細気管支炎による呼吸機能障害を遺したSJSの1例
112	フェンタニル	フェンタニルはナチュラルキラー細胞活性を抑制することにより、腫瘍転移のリスクを増加させる恐れがある。
113	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない二次性悪性疾患が11例報告された。

	一般的名称	報告の概要
114	塩酸ミキサントロン	ドセタキセルとミキサントロンのホルモン不応性前立腺癌に対する併用療法の効果と安全性についてのPhase2トライアルの結果が報告された。
115	塩酸ミキサントロン	ミキサントロンの進行性の多発性硬化症に対する効果を評価するための試験 (RENEW Study) の現状報告から、塩酸ミキサントロンの安全性と忍容性を評価した。
116	アセトアミノフェン	アルコール常飲者によるアセトアミノフェン服用は肝障害を起こすリスクを上昇させる。
117	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン肝毒性
118	アセトアミノフェン	アルコールとアセトアミノフェンの相互作用による肝障害の報告
119	乾燥弱毒生麻疹ワクチン	麻疹の予防接種により再発したと考えられた特発性肺ヘモジデロシスの1例
120	乾燥弱毒生麻疹ワクチン	麻疹の予防接種により再発したと考えられた特発性肺ヘモジデロシスの1例
121	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を否定できない死亡例が報告された。(好中球減少性敗血症による死亡例)
122	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を否定できない死亡例が報告された。(化学療法により誘発された敗血症による死亡例)
123	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を否定できない死亡例が報告された。(肺炎球菌性敗血症による死亡例)
124	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用によりClostridium difficile性下痢の発現リスクが増加する。
125	アザチオプリン	腎移植後にP53遺伝子変異を伴った異時性重複がんが発生した。
126	エストロゲン(結合型)	長期のホルモン補充療法(HRT)により乳癌発現のリスクが増加する。
127	塩酸バンコマイシン	オーストラリア西部におけるheteroresistant vancomycin-intermediate Staphylococcus aureus (hVISA)の出現。
128	プレドニゾロン	BKウイルス感染による移植腎機能低下を認めた1例
129	日本脳炎ワクチン	日本脳炎ワクチン接種後に見られた急性散在性脳脊髄炎の1例
130	乾燥弱毒生麻疹ワクチン	麻疹の予防接種により再発したと考えられた特発性肺ヘモジデロシスの1例
131	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	A型肝炎ワクチン接種5日後にギラン・バレー症候群を発症した健常小児の1例
132	乾燥濃縮人血液凝固第8因子	組換え血液凝固第VIII因子による補充療法中の心筋梗塞の1例
133	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤(PPI)使用者は、非使用者と比較し、C. difficile性下痢のリスクが増加する。
134	レノグラスチム(遺伝子組換え)	G-CSFを使用した悪性リンパ腫症例でG-CSFが心膜炎の原因と考えられた。

	一般的名称	報告の概要
135	ハロペリドール	2型糖尿病を持ち抗精神薬を服用する患者において、糖尿病発症後2年間にインスリン療法(二次的過誤)を開始するというハザード比が上昇する恐れがある。
136	アンブレナビル	プロテアーゼ阻害剤投与群は非ヌクレオチド系逆転写酵素阻害剤投与群より潜在性冠動脈疾患を示す冠動脈カルシウム値は高値を示す。
137	塩酸バンコマイシン	Vancomycin-intermediate Staphylococcus aureusによる感染性心内膜炎の報告
138	下垂体性性腺刺激ホルモン	3D power Dopplar angiographyは卵巣過剰刺激症候群(OHSS)の発症予測や発症例の経過観察に有用である。
139	塩化アセチルコリン	アセチルコリン負荷試験施行時の合併症
140	イトラコナゾール	本剤とシメチジンによる腎臓における薬物相互作用は、P糖蛋白を介した腎尿細管分泌の影響を受ける薬剤の競合阻害に起因する可能性がある。
141	デキサメタゾン	経口グルココルチコイドの使用は心血管系及び脳血管系疾患のリスクを増加させることが示唆された。
142	オメプラゾール	高齢者でのPPI/H2RAの長期投与によりビタミンB12欠乏のリスクが増加する。
143	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	若年性皮膚筋炎に対する免疫グロブリン(IVIg)の有効性および安全性を調査したところ、有効性を確認できたが、頭痛(47%)の発現頻度が高かった。
144	セボフルラン	セボフルランとバラライム(Co2吸着剤)の反応による爆発、発火の報告
145	セボフルラン	セボフルランとバラライム(Co2吸着剤)の反応による爆発、発火の報告
146	酢酸メドロキシプロゲステロン	閉経後ホルモン補充療法は耐糖能異常(AGT;糖尿病あるいは耐糖能障害)を示す女性におけるアテローム性動脈硬化症の増悪と炎症マーカーの悪化に關与している。
147	テガフル・ウラシル	ピリレルピン、シスプラチン及びテガフル・ウラシルによる導入化学療法第2相試験により、好中球減少性敗血症が原因となった死亡例があった。
148	ファレカルシトリオール	維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症に対するビタミンD3製剤投与患者に無形成骨が発現した。
149	エトポシド	CHOP(CYCLOPHOSPHAMIDE、DOXORUBICIN、VINCRIStINE、PREDNISONE)療法およびCHOEP(4剤+ETOPOSIDE)療法において死亡および二次発癌があった
150	エトポシド	CHOP(CYCLOPHOSPHAMIDE、DOXORUBICIN、VINCRIStINE、PREDNISONE)療法およびCHOEP(4剤+ETOPOSIDE)療法において死亡および二次発癌があった
151	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン皮内反応によるアナフィラキシーショックの1例
152	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種によりリウマチ性多発性筋炎を発症した例
153	乾燥弱毒生風しんワクチン	MRワクチン接種後の視神経炎発症について
154	ナルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は外陰前庭炎のリスクを増加する可能性がある。
155	ケトコナゾール	ミダゾラムはケトコナゾール(CYP3A阻害剤)との併用により薬物動態が有意に変化する。

	一般的名称	報告の概要
156	ケトコナゾール	ミダゾラムはケトコナゾール(CYP3A阻害剤)との併用により薬物動態が有意に変化する。
157	テガフル・ウラシル	胃癌に対して、テガフル・ウラシル術前化学療法(NAC)を施行したところ、GOT上昇(GOT:500以上)が2例に認められた。
158	酢酸メドロキシプロゲステロン	閉経後ホルモン補充療法は耐糖能異常(AGT;糖尿病あるいは耐糖能障害)を示す女性におけるアテローム性動脈硬化症の増悪と炎症マーカーの悪化に關与している。
159	シメチジン	シメチジンとイトラコナゾールとの併用により、シメチジンのクリアランスの低下が示唆された。
160	インドシアニングリーン	ICG使用の内境界膜剥離術は黄斑円孔手術の解剖学的に成功率を高めるが、潜在的に視力や周辺の視野欠損に悪影響があるかもしれない。
161	リン酸コデイン	リン酸コデインにより重篤な過敏症症候群と免疫性血小板減少性紫斑病が発症した1例
162	インドメタシン	変形性関節症において、非ステロイド系抗炎症外用剤の長期連用を支持するエビデンスはない。
163	シンバスタチン	シンバスタチンとアミオダロンの併用により横紋筋融解症が発現したという1例
164	プレドニゾン	慢性間接リウマチ治療中に合併したサイトメガロウイルス網膜炎の1例
165	乾燥弱毒生麻しんワクチン	本症例において発見された人ウイルス株と2個の英国豚ウイルス株との間の類似性は人獣共通感染伝播を示唆している。
166	イトラコナゾール	シタラピン、イダルピシン等のAML治療薬とアゾール系(本剤及びcasposfungin)の併用によりCYP3A4による代謝阻害が見られる可能性がある。
167	胎盤性性腺刺激ホルモン	卵巣過剰刺激症候群に伴った脳梗塞の1例
168	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	同種幹細胞移植後に膜性腎症を発現し、ステロイドパルス療法を実施したところ、細菌性髄膜炎を起した1例
169	エチドロン酸二ナトリウム	ビスフォスフォネート系薬剤の治療歴のある患者で顎の骨髄炎、骨壊死の発現例が63例認められた。
170	ベンズプロマロン	痛風治療薬による薬物性肝障害の1例
171	カルベジロール	カルベジロール投与患者に起こった重篤なアナフィラキシーの1例
172	セフトリアキソンナトリウム	セフトリアキソンナトリウム投与患者に起こった重篤なアナフィラキシーの1例
173	ピペラシリンナトリウム	SJSとTENの原因薬物内訳は45%が抗生物質、30%が抗痙攣薬、20%が鎮痛薬によるものであった。
174	ドンペリドン	ドンペリドンにより薬剤性錐体外路症状をきたしたと考えられる1例
175	ワルファリンカリウム	ワルファリンとアスピリンによる抗凝血療法中の患者に対しレーザー光凝固術を行ったところ、上脈絡膜出血を来し視力消失が生じた1例

	一般的名称	報告の概要
176	硫酸アトロピン	心臓移植後の症例25例に硫酸アトロピンを投与。薬理的に逆説的な作用が5例[房室ブロック4件、洞停止2件]に認められた。
177	リドカイン	抗痙攣療法としてリドカインを新生児に投与すると不整脈発生のリスクがある。
178	エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
179	メシル酸イマチニブ	ラットにおける2年間のがん原性試験において、腎臓、膀胱、包皮腺及び陰核腺で腫瘍発現率の増加が認められた。
180	乾燥まむし抗毒素	本症例において発見された人ウイルス株と2個の英国豚ウイルス株との間の類似性は人獣共通感染伝播を示唆している。
181	ハロペリドール	2型糖尿病患者における抗精神病薬によるインシュリン療法開始リスク上昇
182	マレイン酸レボプロメタジン	2型糖尿病患者における抗精神病薬によるインシュリン療法開始リスク上昇
183	塩酸プロメタジン	塩酸プロメタジンとクロルプロメタジンにより重篤な悪性症候群が発症した1例
184	プロピルチオウラシル	プロピルチオウラシル(PTU)またはチアマゾール(MMI)の前投与は、その後の放射性ヨード(RAI)治療に影響を及ぼす。
185	アモキシシリン	アモキシシリンを内服後にStevens-Johnson症候群を発症し、その後の臨床経過で閉塞性細気管支炎を合併したと考えられる1例
186	リン酸デキサメタゾンナトリウム	早産の合併症を予防するためのデキサメタゾンの複数回出生前投与が白質軟化症のリスク増加と2歳時の神経発達精神障害に関連していた。
187	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェン及びクロルフェニラミン併用投与に関連した第8因子阻害物質を有する後天性血友病の1例
188	塩酸パロキセチン水和物	妊娠第3期にパロキセチンを服用した妊婦において出産時に出血が見られた妊婦の割合が高かった。
189	アモキシシリン	閉塞性細気管支炎による呼吸機能障害を遺したStevens-Johnson症候群の1例
190	塩酸ブプレルフィン	ブプレルフィン曝露妊娠から生児出産31例、死産1例、自然流産1例、任意中絶1例となった。新生児離脱症候群は13例(41.9%)にみられ、この内8例はオピエート治療を要した。新生児2例に早期動脈管狭窄と耳珠垂(tragus appendix)の奇形がみられた。
191	ジアゼパム	意識障害で入退院を繰り返したジアゼパム中毒の1例
192	ステアリン酸エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
193	マレイン酸フルフェナジン	プロラクチンを上昇させる抗精神病薬の長期投与は、骨塩密度減少の高リスク因子となることが示唆された。
194	スルピリド	スルピリドを投与された患者がジストニアを発現した1例

	一般的名称	報告の概要
195	リスペリドン	リスペリドンは直接的にヒト心筋層に心臓電気生理学的影響を及ぼすことが判明した。このことから、何ら疾病素質を持ち合わせない患者においてもリスペリドンは心室性不整脈を惹起しうる中程度のリスクがあることが示唆された。
196	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な深頸部膿瘍が発症した1例
197	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な深頸部膿瘍が発症した1例
198	リン酸デキサメタゾンナトリウム	超低出生体重児に対するデキサメタゾン投与例の検討結果、短期的な副作用として、高血圧、徐脈、尿量減少など循環への影響がみられた。また、DEX投与群では身長、頭囲の発育が不良で精神発達遅滞、脳性麻痺の頻度が高く、発達の予後も不良であった。
199	オメプラゾール	高齢者でのH2RA/PPIの長期使用とビタミンB12欠乏の発現との関連が示唆された。
200	スルピリド	ハロペリドール、レボメプロマジン、スルピリドなどの抗精神病薬投与中の患者において、S状結腸捻転術後悪性症候群が発症した1例
201	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウム坐剤の投与によりリポイドネフローシスが発症した1例
202	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェン毒性にある患者で高アマラーゼ血症及び急性膵炎が発生する恐れがある。
203	酒石酸ゾルピデム	入院中の本剤使用患者において中枢神経系副作用の発現頻度が高い。
204	アセトアミノフェン	広く使用されている解熱鎮痛剤であるアセトアミノフェンの副作用と相互作用
205	ステアリン酸エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
206	イトラコナゾール	イトラコナゾールの代謝酵素CYP3A4阻害作用により、単回投与されたエチゾラムのAUCが有意に増加、消失半減期が有意に延長した。
207	エチゾラム	イトラコナゾールの代謝酵素CYP3A4阻害作用により、単回投与されたエチゾラムのAUCが有意に増加、消失半減期が有意に延長した。
208	クエン酸クロミフェン	生後初期のクロミフェン投与は雄ラットにおいても、雌と同様に成熟後に顕著な生殖器官の異常を引き起こす事が示唆された。
209	小柴胡湯	小柴胡湯服用中に発症した間質性肺炎の1例
210	大柴胡湯	薬剤性間質性腎炎の経過及び予後については原因薬剤を早期に休薬すれば、速やかに改善するのが一般的である。しかし、早期に発見できず、間質の線維化を来した例では、予後不良となると考えられた。
211	エトボシド	VEPA/FEPP療法は、LSG4と同等効果で感染症頻度が低く、CHOPに比肩しうる治療法と思われる。
212	ブスルファン	急性骨髄性白血病(AML)および骨髄異形成症候群(MDS)に対する同種造血幹細胞移植(HSCT)の前処置にブスルファン静注およびフルダラビン静注を用いた試験において、主に進行期疾患の患者からなる群でレジメンに関連する死亡が1例認められた。死亡したのは、真菌性肺炎およびうっ血性心不全の治療歴を持ち、AMLが持続している状態で肺出血の併発による移植関連サイトカイン症候群を来した患者であった。

	一般的名称	報告の概要
213	ブスルファン	予後不良のMDSに対する非血縁造血幹細胞を用いたRIST(URIST)について検討したなかで、肺炎、TMAによる死亡例が認められた。
214	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	交差適合試験陽性の腎移植後に行われるタクロリムスと低容量の免疫グロブリンとの併用は、タクロリムスを単独で投与した場合に比べ、近位尿細管上皮細胞の空胞化をより高頻度に広範囲に起こす。
215	ブスルファン	22年間の急性リンパ性白血病の強力な前処置による同種骨髄移植成績を述べた。最大の障害は原病の再発であるが、標準リスク群では良好な長期生存率48%(15年)を示すことができた。
216	ブスルファン	臍帯血を用いた非破壊的造血細胞移植(RIST)の現状についての発表のなかで、移植後早期死亡3症例(出血性心外膜炎、VOD、TMA各1症例)がみとめられたと報告された。
217	ブスルファン	単施設での過去17年間の移植症例におけるVODについて検討した。VODが重症化すると致死的で死亡までの経過が非常に短い。抗凝固療法や血栓溶解療法などの治療対象例の適格な選択と有効な予防法の確立などにより、VOD合併例の予後の改善が期待できる。
218	塩酸クロルプロマジン	抗精神病薬を使用している日本人女性は、肺動脈血栓塞栓症の危険性が高いと考えられる。
219	ブスルファン	日本骨髄ドナープログラムから特定した非血縁者ドナーの骨髄を用いて骨髄移植(BMT)を受けた先天性遺伝病患者81例の臨床成績をレトロスペクティブに解析した結果、間質性肺炎 3名、敗血症 3名、VOD 2名、出血 3名、肝不全 1名、腎不全 2名の死亡例がみられた。
220	ブスルファン	自己末梢血幹細胞移植を受け第1完全寛解期にある成人AML患者を対象に、受診順に行った末梢血幹細胞(PBSC)を採取するための2つのプロトコルの臨床成績を比較した。そのなかで移植関連死が5例観察された。
221	防風通聖散	肥満改善薬として用いられた防風通聖散による薬物性肝障害の1例
222	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムによると考えられる急性間質性腎炎を来した例
223	シクロホスファミド	ホモ接合のCYP2B6*5及びCYP2C19*2では末期腎疾患の発生率及びクレアチニン濃度が倍増する恐れがある。
224	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムによると考えられる急性間質性腎炎を来した1例
225	シクロホスファミド	再生不良性貧血の造血幹細胞移植における前処置としてシクロホスファミドを投与した場合、心毒性の発生頻度の上昇が見られた。
226	ケトコナゾール	本剤との併用によりトリアゾラムのクリアランスを低下させ、トリアゾラムの血中濃度及び組織濃度を増加させる。
227	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン(CPT-11)を含む化学療法を実施した転移性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1*28の遺伝子多型と「重篤な下痢」ならびに「重篤な無力症」の間に有意な相関が認められた。
228	塩酸チクロピジン	大腿アプローチMesh-plug法術後に腹膜前腔に巨大血腫を生じた大腿ヘルニアの1例
229	イトラコナゾール	本剤はエチゾラムの代謝を阻害し、CYP3A4は少なくとも部分的にエチゾラムの代謝に関与することが示唆された。
230	アスピリン	吐血で発症した膵嚢胞腺腫内出血の1例
231	フマル酸テノホビルジソプロキシル	骨密度減少はウイルス量減少と相互関係があり、このような反応が見られた者では、骨毒性のリスクがより高い可能性が示された。

	一般的名称	報告の概要
232	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	静注用免疫グロブリン製剤の特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) と原発性免疫不全症候群 (PID) の臨床試験において、副作用が本剤の使用上の注意に記載しているよりも高率に発現している。
233	麦門冬湯	超音波内視鏡にて観察し得た胃アミロイドーシスの1例
234	塩酸ファスジル水和物	塩酸ファスジル水和物のラット及びウサギにおける持続静脈内投与による胎児の器官形成期投与試験で、催奇形性を示す結果が得られた。
235	テガフル・ギメラシル・オテラシル	胃癌を対象としたテガフル・ギメラシル・オテラシル / Paclitaxel併用療法において、グレード3以上の好中球減少、下痢、ビリルビン値異常、神経障害が各1例発現した。
236	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	二次進行型多発性硬化症に対する免疫グロブリン (IVIg) の二重盲検プラセボ対照試験において、深部静脈血栓が6/159、肺動脈血栓症が4/159の頻度で発現した。
237	ハロペリドール	抗精神病薬を使用している日本女性は、肺動脈血栓塞栓症の危険性が高いと考えられる。
238	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン (CPT-11) を含む化学療法を実施した進行性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1のTATAboxの遺伝子多型と「高度な好中球減少」の発現率との間に有意な相関性が認められた。
239	エトポシド	エトポシド添加下で、二次性白血病でよく知られている染色体異常が生じるまでの過程が報告されており、エトポシドによる発ガンの可能性が否定できない。
240	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムの内服が誘因となりReye症候群が発現した1例
241	アロプリノール	アロプリノールの服用により血管炎を来とし脳梗塞を合併した1例
242	アロプリノール	アロプリノールとベンズプロマロンの投与により薬物性肝障害が発症した1例
243	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン (CPT-11) を含む化学療法を実施した転移性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1 * 28の遺伝子多型と「重篤な下痢」ならびに「重篤な無力症」の間に有意な相関が認められた。
244	アスピリン	アスピリンにCOX-2選択的阻害剤や非選択的NSAIDsを併用することで、潰瘍リスクが上昇する。
245	高カロリー輸液用総合ビタミン剤 (6)	抗酸化サプリメントは胃腸がんを予防するエビデンスはみられず、ビタミンAとカロチン及びビタミンEとカロチンの併用は全死亡率を有意に増加させた。
246	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に生じた脳幹脳炎の1例
247	メトトレキサート	悪性腹水を伴う進行性胃癌 (AGC) に対するMTXと5-FUの逐次療法 (MF) の有効性と毒性を検討した第2相試験において10例の好中球減少症 (グレード3及び4) が発現し、このうちの2例に治療関連死が認められた。
248	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	コルチコステロイド投与が誘因と考えられた正常血圧性強皮症腎クリーゼの1例
249	塩酸ミキサントロン	ミキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
250	塩酸チアプリド	塩酸チアプリド、塩酸スルトプリド等の向精神薬投与中の患者において悪性症候群が発症した1例

	一般的名称	報告の概要
251	スルピリド	スルピリド等の向精神薬投与中の患者において悪性症候群が発症した1例
252	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの長期投与がアスピリンや他のNSAIDsの長期投与と比較して、腎機能を低下させる危険性が高い。
253	スルピリド	劇症肝炎の回復期にヘルペス脳炎を発病した1例
254	シクロホスファミド	進行非円形細胞型肉腫に対して、シクロホスファミド1200mg/m ² ・イホスファミド14g/m ² ・ドキシソルピシン60mg/m ² 投与した際、単剤を所定の容量で投与した際より、好中球減少の発生を高率に認めた。
255	ナルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊剤の使用とアルコールの相互作用により、乳癌のリスクが増加する可能性がある。
256	ナルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊剤の使用と乳癌リスクとの関係はNQO1遺伝子型によって異なる可能性がある。
257	バルプロ酸ナトリウム	妊娠中にバルプロ酸を服用していた母親が二分脊椎を出産した例
258	フェニトイン	妊娠中にフェニトインを服用していた母親が二分脊椎を出産した例
259	フェルピナク	米国で実施されたフェルピナク貼付剤とプラセボとの間で有効性と安全性においての有意差が認められない。
260	トラネキサム酸	小児は成人と異なり、心臓手術時の出血に対して、トラネキサム酸(TA)が有効でないか、あるいは、より高用量を必要とする可能性があることが示唆された。
261	ケトプロフェン	ジクロフェナク、ロキソプロフェンの投与に耐性が認められた喘息の既往をもつ患者に対し、最初のNSAID投与から3年後にアスピリン、ケトプロフェンを投与したところ重篤な喘息発作を発現した例
262	レノグラスチム(遺伝子組換え)	rG-CSF投与症例において血液学的悪性腫瘍が高頻度で発現した。
263	プレドニゾロン	プレドニゾロンを含む免疫抑制療法を行った結果、心停止、敗血症、播種性血管内凝固症候群による死亡が認められている。
264	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、心筋梗塞及び気管支肺炎による死亡が認められている。
265	エリスロマイシン	表皮細胞によるCTACK/CCL27の産生及びCCR10+リンパ球が中毒性表皮壊死症及びSJSの発現時にみとめられる
266	エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
267	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を否定できない死亡例が報告された。(好中球減少性敗血症による死亡例)
268	フルコナゾール	フルコナゾールが危篤状態の患者に投与されたとき、ICU(集中治療室)の滞在期間と入院日数が有意に延長した。
269	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	頭部外傷後にメチルプレドニゾロンを投与しても2週間以内の死亡率は低下しないことを示唆した。しかし、2週間以内の死亡リスクが上昇した原因は不明である。
270	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に発症した顕微鏡的多発血管炎の1例

	一般的名称	報告の概要
271	インフルエンザHAワクチン	ベル麻痺の発症は単純ヘルペスウイルス感染後の発症以外にも免疫学的機作による脱髄反応によるとも考えられている。こうした発症メカニズムから考えると、局所に投与されたインフルエンザワクチンのみならず、通常の不活化ワクチンの投与ルートでも発症が認められることが疫学的に示唆された。
272	バルプロ酸ナトリウム	薬剤性過敏症症候群drug-induced hypersensitivity syndrome(DIHS)を発症した1例
273	テルミサルタン	A-II受容体拮抗剤(カンデサルタン、ロサルタン、バルサルタン、テルミサルタン)における咳の発現頻度調査を行った結果、これら4剤のインタビューホームまたは企業ホームページにおける咳の発現頻度は0.1~1.9%であり、今回の全データにおける頻度と比較すると10.3~13.52%の開きがある、というものであった。
274	グリセリン	グリセリン浣腸を施行後に急性腎不全を来たした1例
275	アセトアミノフェン	飲酒者においては、アセトアミノフェンによる肝障害リスクが上昇する。
276	ウロキナーゼ	脳塞栓症治療に対する治療法の検討を行なったところ、ウロキナーゼ点滴全身投与又は、選択的中大脳動脈内カテーテルからのウロキナーゼ投与を行った群において使用上の注意から予測できない発現率で出血性脳梗塞合併症を引き起こした。
277	インドメタシン	限局性腸管穿孔と索状型小腸閉鎖を併発した超低体重児の1例
278	ブシラミン	ブシラミン内服開始後20日という短期間で薬剤性落葉状天疱瘡が出現した1例
279	アモキシシリン	閉塞性細気管支炎による呼吸機能障害を遺したStevens-Johnson症候群の1例
280	シロスタゾール	Cilostazolで薬剤抵抗性の上室性不整脈を呈した脳梗塞の1例
281	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDs投与 によると考えられる多発性横行結腸穿孔の1例
282	プレドニゾン	プレドニゾンによる疾病の治療時には、誘発感染症や感染症の増悪が起こり得る。
283	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン(CPT-11)を含む化学療法を実施した進行性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1のTATAbboxの遺伝子多型と「高度な好中球減少」の発現率との間に有意な相関性が認められた。
284	イブプロフェン	NSAIDs内服により急性腎不全を呈した1例
285	デキストラン40・ブドウ糖	頭頸部マイクロサージェリーの皮弁における血栓予防薬として使用した低分子デキストランは、アスピリンに比較して術後合併症の頻度が高く、リスクが大きい。
286	バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸ナトリウム服用妊婦の奇形(口唇口蓋裂)出産の1例
287	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	グロブリン大量療法後16日目に肛門手術を行い、その10日目に深部静脈血栓症が発現した。
288	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	静注免疫グロブリン療法後に静脈洞血栓症が発現した。
289	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	IVIgと副腎皮質ステロイドは血栓症事象に関連する可能性がある。
290	インターフェロン アルファ(BALL-1)	インターフェロン療法後の糖尿病の発症を誘因として生じた後腹膜膿瘍の1例

	一般的名称	報告の概要
291	ケトコナゾール	オールトランスレチノイン酸(ATRA)はケトコナゾール(CYP3A阻害剤)との併用により薬物動態が有意に変化する。
292	塩酸プソイドエフェドリン	プソイドエフェドリンを妊娠初期に用いると新生児に腹壁破裂という重大な副作用をもたらす危険性がある。
293	スルピリド	劇症肝炎の回復期にヘルペス脳炎を発病した1例
294	ポピドンヨード	創部消毒のために使用したヨウ素製剤によりヨウ素中毒を来し、意識障害を発現した1例
295	エストロゲン(結合型)	結合型エストロゲン製剤によるホルモン補充療法により、静脈血栓症の発現のリスクが高まる。
296	エストロゲン(結合型)	閉経後の婦人に対するエストロゲンとプロゲスチン併用のホルモン補充療法(HRT)により、静脈血栓症の発現のリスクが高まる。
297	レンチナン	シスプラチンは軽度ながら心筋障害作用があり、その併用はレンチナンの心筋障害を増強すると考えられ、雌は雄よりも拡張型心筋症の発生頻度が低いと考えられた。
298	エストラジオール	静脈血栓症リスクに関し、エストロゲン単独では上昇せずエストロゲン・プロゲスチン併用においてのみ上昇することが示唆された。
299	d,l - マレイン酸クロルフェニラミン	米国中毒コントロールセンターにおける薬物中毒症例の解析の結果、アセトアミノフェン、フェンタニル、モルヒネ、クロルフェニラミンの中毒による死亡例(大半の症例では自殺)が認められた。
300	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	ステロイドパルス療法開始後に急性膵炎を発症したMPO-ANCA関連腎炎の1例
301	フロセミド	ヨークシャー種ブタにおいて、プラセボ群よりフロセミド投与群の方が、左室機能障害を発症するまでの平均時間は早かった。
302	塩酸ゲムシタピン	NSCLC(非小細胞肺癌)に対するドセタキセル・ゲムシタピン療法/ドセタキセル・シスプラチン療法の無作為比較第2相臨床試験において、ドセタキセル・ゲムシタピン併用群に肺毒性が顕著に発現した。
303	エストラジオール	静脈血栓症リスクに関し、エストロゲン単独では上昇せずエストロゲン・プロゲスチン併用においてのみ上昇することが示唆された。
304	新ルルAカプセル	薬疹と薬物障害 中毒性表皮壊死症(TEN)型薬疹の1例
305	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に発症した顕微鏡的多発血管炎の1例
306	臭化水素酸デキストロメトर्फアン	デキストロメトर्फアン(DM)とキニジン(Q)の併用投与によりQの常用量の数十分の一量で、DM代謝が強く阻害され、DMの血中濃度とAUCが数十倍に上昇した。
307	新三共胃腸薬	常用量の制酸薬にて発症した重篤なミルク - アルカリ症候群の1例
308	酢酸メドロキシプロゲステロン	ホルモン補充療法は静脈血栓症のリスクを高め、血栓症に影響を及ぼす他の因子のリスクをさらに増大させる。
309	テガフル・ウラシル	大腸癌45例に対して、テガフル・ウラシル、ホリナートカルシウム併用療法施行したところ、1例に重篤な下痢が発現した。
310	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に発症した顕微鏡的多発血管炎の1例

	一般的名称	報告の概要
311	塩酸プロプラノロール	Brugada症候群における心室細動誘発性に自律神経作用薬が影響を及ぼす。
312	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	Leiden第5因子遺伝子変異を有する女性における経口避妊薬の服用は、静脈血栓塞栓症のリスク上昇につながる
313	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を否定できない死亡例が報告された。(下痢による死亡例)
314	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に発症した顕微鏡的多発血管炎の1例
315	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	IVIgと副腎皮質ステロイドの併用療法には相乗的な血栓症の危険性が潜む
316	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	IVIg治療は深部静脈血栓症の潜在的危険性の存在を示唆し、その危険性は移動性に障害がある患者へのIVIg大量投与でより高くなる。
317	リファンピシン	リファンピシン服用中に急性腎不全を発症した例
318	酢酸メドロキシプロゲステロン	ホルモン補充療法は静脈血栓症のリスクを高め、血栓症に影響を及ぼす他の因子のリスクをさらに増大させる。
319	肺炎球菌ワクチン	肺炎における肺炎球菌陽性率は約40%だった。今回の検討では、肺炎球菌ワクチンは肺炎あるいは肺炎球菌肺炎の予防効果を認めなかった。
320	ヘパリンナトリウム	未分画ヘパリンを使用している人工心臓弁施行した妊娠中婦人にはバルブ血栓症の罹患率が高いとの報告がある。
321	プレドニゾン	ネフローゼ症候群の治療中に発症した肺ノカルジア症の1例
322	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	急性脊髄損傷に対するメチルプレドニゾン超大量療法は無効かつ有害である。
323	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	尿道損傷を伴う外傷性骨盤骨折にて入院中MRSA敗血症によって死亡した1例
324	フェノバルビタール	川崎病の経過中にDrug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS) の合併が疑われた1例
325	ヘパリンナトリウム	心臓カテーテル直後に血小板減少、紫斑を生じたNoonan症候群の1例
326	テガフル・ギメラシル・オテラシル	ステロイドパルス療法を試みたテガフル白質脳症の1例
327	塩酸ミキサントロン	ミキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
328	テガフル・ウラシル	術後再発例・根治切除不可能大腸癌に対しテガフル・ウラシル・ホリナート併用療法を行ったところ、1例にアトピー性皮膚疹増強が認められた。
329	ラベプラゾールナトリウム	胃酸分泌抑制剤療法は、市中感染性肺炎の罹患率を高める。
330	フェノバルビタール	フェノバルビタール内服時に発現した薬剤誘発性過敏症候群の1例
331	エトポシド	エトポシドを含む大量化学療法との関連が否定できない聴力障害の1例

	一般的名称	報告の概要
332	ドセタキセル水和物	ドセタキセル・ゲムシタピン併用療法(DG群)で、ドセタキセル・シスプラチン併用療法(DC群)より高頻度の肺障害(間質性肺炎)が見られることが報告された。
333	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用によりClostridium difficile性下痢の発現リスクが増加する。
334	ニトログリセリン	陳旧性心筋梗塞患者における硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。硝酸薬間欠投与は、心事故を増大しないが、心事故の防止効果はない。
335	硫酸バリウム	注腸造影検査に伴う穿孔の例
336	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	メチルプレドニゾンの大量療法がCMV感染を誘発した例
337	ナルエチステロン・エチニルエストラジオール	Leiden第5因子遺伝子変異を有する女性で経口避妊薬を服用した場合静脈血栓塞栓症のリスクが増大する
338	フィブリノゲン加第13因子(2)	無ハプトグロビン血症患者に発現したアナフィラキシーショックの1例
339	カネボウ紫雲膏	アトピー性皮膚炎の自家療法(紫雲膏, プロポリス等)で生じた接触性皮膚の1例
340	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した可能性のある臨床試験において、使用薬剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
341	ブスルファン	ブスルファンやメトトレキサートを含む併用療法に関する臨床試験において、これらの薬剤との関連性が否定できない死亡例が報告された。
342	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	慢性的なインスリン治療は2型糖尿病患者の結腸直腸癌のリスクを有意に増加させる。
343	ミダゾラム	プロボホール投与群では、ミダゾラム投与群に比較して比較的深い鎮静が得られ、吐き気や嘔吐の頻度が減少する一方、血圧低下、血管痛、呼吸抑制やむせの発現頻度が多い。
344	ミダゾラム	CF(大腸内視鏡)検査時に発生した喘息症例の1例
345	ワルファリンカリウム	アルコール中毒の既往がある長期ワルファリン服用者において、抗凝血性イレウスが生じ、空腸血腫を来した例
346	ワルファリンカリウム	人工弁使用者に対するワルファリン投与は血清LDH濃度を上昇させることが示唆された。
347	ランソプラゾール	酸分泌抑制剤(PPIやH2RA)の使用により市中肺炎の発症リスクを増加させる可能性がある。
348	ヘパリンナトリウム	ヘパリン起因性血小板減少症が強く疑われた1例
349	ホスフェストロール	青年期における高用量エストロゲンへの曝露と、後年の妊孕性障害との間には関連性があることを示している。
350	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後、多発性単神経炎として出現し、血管炎と生検で認められた血管炎性ニューロパシーの1例
351	乾燥細胞培養痘そうワクチン	天然痘、炭疽病、破傷風の三種の予防接種を受けた20日後に多形性紅斑を発現し、ステーブンス・ジョンソン症候群へと進行した1例

	一般的名称	報告の概要
352	ブスルファン	ブスルファン及びシクロホスファミドを前処置とした同種骨髄移植後の、成人白血病患者における死亡率および非再発死亡率をみた試験で、死亡率および非再発死亡率は、ブスルファンの経口剤よりブスルファンの静注の方が低かった。
353	ブスルファン	台湾退役軍人一般病院における骨髄機能非破壊骨髄細胞移植において、4ヵ月から54ヵ月の観察期間中に5名の患者が死亡し、そのうち1例はCMVを伴う高度GVHDで死亡した。
354	メトトレキサート	メトトレキサート(MTX)大量療法時の消化器障害の軽減を目的に併用されるオメプラゾール(OPZ)には、MTXの排泄遅延作用が報告されており、今回検討した同系統のラベプラゾール(RPZ)もMTXの排泄を遅延させる。
355	塩酸メキシレチン	塩酸メキシレチンによるSJSの1例
356	ゼラチン	骨盤骨折による出血のためゼラチンスポンジによる塞栓術を施行した。その後、臀部を中心に皮膚壊死をきたし、さらに右下臀動脈に仮性動脈瘤を認めた。
357	経腸成分栄養剤(2)	胃ろう造設患者に対する経腸栄養剤固形化投与時に発現した下痢の1例
358	オメプラゾール	胃酸分泌抑制剤の使用により市中感染性肺炎の発現リスクが増加する。
359	バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸暴露群は非暴露群や他の単剤暴露群と比較して、平均の言語性知能指数が有意に低く、用量依存性もみられ、バルプロ酸の関与が示唆される。
360	オメプラゾール	胃酸分泌抑制剤の使用により市中感染性肺炎の発現リスクが増加する。
361	テオフィリン	テオフィリン服用中に精神症状を伴う脳波異常を来した1例
362	シロスタゾール	シロスタゾール服用中にQT延長をきたしtorsade de pointesを認めた例
363	ブスルファン	HLA一致同種からの造血細胞移植後の処置としての骨髄機能非破壊と骨髄機能破壊の死亡率を比較した試験で、骨髄機能非破壊の方が死亡率が低かったとの報告の中で、移植に関連してブスルファン、メトトレキサートが使用されていた。
364	ブスルファン	危険性の高い急性骨髄性白血病における高用量CD34+細胞を用いた層別の新たな投与方法(ブスルファンを含む)によるハプロタイプHLA不一致移植の試験で免疫の回復遅延に関連した重篤な感染症により死亡した症例がみられた。
365	塩酸チアプリド	老年期うつ病でけいれん発作を起こした1例
366	アルプロスタジル	心室中隔欠損症(VSD)、肺動脈閉鎖(PA)の治療において、プロスタグランジンE1長期投与による肺障害が生じた。
367	ロキソプロフェンナトリウム	間質性腎炎によりacute on chronicの腎不全を呈した糖尿病男性患者の1例
368	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、grade3-4のイレウス、心膜炎、ビリルビン上昇、トランスアミナーゼ上昇及び肺炎が認められている。
369	プレドニゾン	プレドニゾンを含む免疫抑制療法を行った結果、急性腎不全が認められている。
370	イブプロフェン	アスピリンとの併用により非致死性心筋梗塞初発リスクの上昇する恐れがある。

	一般的名称	報告の概要
371	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	慢性的なインスリン治療は2型糖尿病患者の結腸直腸癌のリスクを有意に増加させる。
372	フシジン酸ナトリウム	フシジン酸を使用した治療中に鉄芽球性貧血を発症した例
373	B C G膀胱内用	両側性急性の前部ぶどう膜炎と診断された1例
374	ヘパリンナトリウム	コントロール良好の糖尿病合併妊婦が妊娠末期に著しい高脂血症を発症し、帝王切開術中に肺塞栓症を疑わせるような臨床症状を呈し、術中のヘパリン投与が原因と思われる、出血量の上昇を認めた。
375	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン療法後に発症した子宮癌肉腫の例
376	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン投与後に認められた子宮体癌の例
377	ケトコナゾール	ケトコナゾール(CYP3A4阻害剤)との併用によりイマチニブの代謝が阻害されイマチニブの血中濃度が上昇する。
378	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に生じた辺縁系脳炎の1例
379	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後重篤な血管炎性ニューロパシーを発現した例
380	リバピリン	リバピリン投与による生殖障害及び先天異常の例
381	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	ラットを用いたin vivoの実験において、組織プラスミノゲンアクチベータ(tPA)の直接的なneurotoxicityが認められた。
382	酢酸メドロキシプロゲステロン	酢酸メドロキシプロゲステロンアセテートのデポー剤(DMPA:酢酸メドロキシプロゲステロンアセテートの筋注製剤)群の尿路感染症(UTI)の発生頻度は対照群と比較して高かった。
383	エチドロン酸二ナトリウム	ラットを用いたin vivoの実験において、ビスホスホネート製剤で筋障害が認められた。
384	酢酸メドロキシプロゲステロン	酢酸メドロキシプロゲステロンアセテートのデポー剤(DMPA:酢酸メドロキシプロゲステロンアセテートの筋注製剤)群の尿路感染症(UTI)の発生頻度は対照群と比較して高かった。
385	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムによると考えられる急性間質性腎炎を来した1例
386	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクの肝毒性および代謝が、P450 3A活性の増加に従い亢進された。
387	アテノロール	シロスタゾールとアテノロールを併用していた患者において手術のためシロスタゾールを中止したところ、Sinus node dysfunction(洞結節機能障害)が発現し、心停止および徐脈を引き起こした1例
388	グリチルリチン・DL - メチオニン配合剤	グリチルリチンの投与により低カリウム血症を発現し、その後偽性バーター症候群となり慢性腎不全に至った1例
389	硫酸バリウム	注腸造影検査に伴う穿孔の1例
390	硫酸バリウム	注腸造影検査に伴う穿孔の1例
391	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	輸血開始から約20分後、IVIg投与終了から約3時間後に心筋梗塞を発現した。

	一般的名称	報告の概要
392	ビタミンE剤	ビタミンEを1日400IU(267mgに相当)用量以上の摂取した場合、最長約8年の追跡期間中の死亡率がプラセボと比べて高い。
393	ゲフィチニブ	ラットを用いたゲフィチニブ104週投与癌原性試験において、肝臓良性腫瘍と腸間膜リンパ節血管肉腫の発生頻度が増加した。
394	クエン酸クロミフェン	不妊治療(クロミフェン-HMG療法)中に発症した卵巣小細胞癌(大細胞亜型)の1例
395	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	好酸球増加を伴う間質性肺炎を併発し、ステロイドによる治療が著効するも減量中に急激な悪化を認めた骨髄異形成症候群(MDS)の1例
396	テガフル	乳癌術前後の脂質レベルの変動を検討したところ、テガフルを含むフッ化ピリミジン群において血清脂質の上昇が認められた。
397	ミダゾラム	ドルミカムによる重篤な副作用(SpO2低下)の例
398	ミダゾラム	鎮静を用いた上部消化管検査にて覚醒不十分の為入院となった例
399	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	ラットを用いたin vivoの実験において、組織プラスミノゲンアクチベータ(tPA)の直接的なneurotoxicityが認められた。
400	アスピリン	アスピリンとアルコールの併用により消化管出血リスクが上昇する。
401	アスピリン	異型狭心症患者で、アスピリン服用により冠血管攣縮が悪化する。
402	アスピリン	アスピリンとカプトプリルの併用によりカプトプリルの降圧効果が減弱した。
403	ペグインターフェロン	ペグインターフェロン投与による非呼吸器感染のリスクの増強がC型肝炎患者において観察された。
404	ペグインターフェロン	肝移植後のPEG-Interferon -2b及びRibavirin併用投与群での肝動脈狭窄発現が、インターフェロン未治療群又は、非PEG修飾インターフェロン(IFN)及びRibavirin併用投与群より高かった。
405	染毛剤(パラフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、メタアミノフェノール、パラアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、過ホウ酸Na(1水和物))	1980年以前に染毛剤の使用を開始した女性の間で非ホジキンリンパ腫のリスク増加がみられた。
406	コウジ酸	コウジ酸は腫瘍プロモート活性と肝発ガンの誘発に影響を及ぼすことが示唆された。
407	コウジ酸	コウジ酸をラットに20週間投与した結果、肝に対して弱いながら発がん性を示し、発ガンに肝障害の関与する可能性のあることが示唆された。
408	染毛剤	染毛剤中のp-phenylenylenediamineによるアレルギー性接触皮膚炎の1例
409	染毛剤	染毛剤でアレルギー症状を起こし、その後、胸水や全身浮腫を生じた1例
410	滋養強壮剤	本剤服用後、上肢、下肢及び口腔内に水泡が発現した。
411	乾燥弱毒生麻しんワクチン	BSEのブタに対する感染性について経口感染の可能性は否定できないものの、臨床的・病理学的検査およびマウスを用いた生物検定では経口による感染を確認できなかった。

	一般的名称	報告の概要
412	乾燥弱毒生麻しんワクチン	H5N1型トリインフルエンザウイルスの再流行と病原性の増強について
413	人全血液	英国から輸血を介したvCJD伝播の可能性がある2例目の症例が報告された。患者のプリオン遺伝子型は129番目のコドンがヘテロ接合型(MV型)であった。
414	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	英国のコンサルタント会社DNVが英国保健省からの委託で作成した、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価等の報告
415	乾燥弱毒生麻しんワクチン	ウシ血清使用水痘ワクチンよりウシポリオーマウイルスが検出された。
416	コレラワクチン	国内BSE感染死亡牛で特定危険部位以外より異常プリオンが検出された。